

# 研修旅行 in オランダ

2014/6/20—2014/6/26

近藤 健

Report 2014/9/25

## オランダ～ドイツ建築郡研修の旅

### 世界遺産シュローダー邸

この度の建築研修の旅は主に、オランダの都市とドイツの建築群を視察した。オランダの正式な国名は低地の国を意味する Netherlands（ネーデルラント王国）であり、オランダは俗称のホラントのポルトガル語訳 Holanda からきている。国土の面積は約 41500 km<sup>2</sup>（北海道の半分程度）、人口は約 1660 万人の国であり、それほど大きな国ではないが、アムステルダムは伝統的な建造物が多数あり、運河のひろがる情緒豊かな

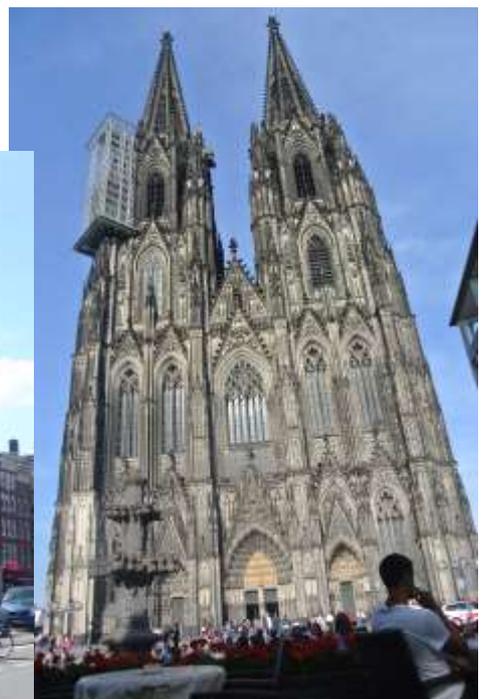
港都市である。

オランダでは首都のアムステルダムと風車で有名なロッテルダム、また第 4 の都市ユトレヒトに行った。ドイツではノイスとケルンの建築群をみて回り、ゴシック様式建築物では最大のケルン大聖堂の荘厳な外観に感激した。

宿泊はアムステルダムの中心市街地にあるディポルト ファン クレフ Hotel に 4 泊と

もすべて滞在して各地を回った。アムステルダム中央駅にも近く、市の中心部王宮のすぐ裏手にあり交通にも便利な立地であり周囲を散策し、情緒ある街並みを十分堪能できた。

ニューヨークのマンハッタンとは違い、歴史的建造物とモダンな建造物が混在し港街としての情緒ある風景がそこにあった。



建築視察の移動は建築群が多数あり、チャーターバスにて見て回ったがオランダとドイツケルンの間は電車を利用した。車窓からの眺めは田園地帯がひろがるのどかな風景が時間が過ぎるのも忘れさせてくれた。

また、アムステルダムでは遊覧船に乗り運河からの街並みの風景を見ることができ情緒を楽しめた。

運河には数多くのボートが繋留されており日本とは違い、インフラも整備せれており、住宅として活用し多彩な人生を謳歌できているように思われた。



オランダは伝統的な建築物を保存している街並みと、中心市街地から少し離れば、近代的で独創的な建築物が多数みられる。

近代の建築物は、独創的であり目を見張るものも多数あった。デザインが斬新で大胆な遊び心に満ちたスマートで自由な設計活動が行われていた。



オランダ到着の次の日にアムステルダムの市内を見て回ったあとに、ユトレヒトとに移動した。アムステルダムからバスに乗って1時間ほどかかり到着した。

ユトレヒトはオランダ第4の都市であり、首都アムステルダムから30kmほど南に位置する。また、ユトレヒトにはオランダ最大の大学であるユトレヒト大学がある。広大な敷地に多彩なデザインの建物群が点在していた。



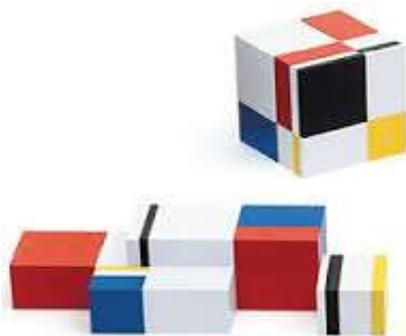
次に、リートフェルトのシュローダー邸を視察した。建物内の写真撮影は禁止されていたが、イヤホンにより日本語の解説を聞きながら案内してもらった。

2000年にユネスコの世界遺産に登録された。



世界遺産の中で最も小さな住宅である。

赤、黄、青、白、灰、黒の線と面によって構成された外観は「赤と青のいす」の造形原理を発展させたデ・スタイル建築のもっとも有名な建築物である。キュービックはデ・スタイル哲学を表現するもので購入してみた。



内部もデ・スタイルのデザインに統一されており、壁がなく可動式の壁面で構成された遊び心のあるフレキシブルな空間を実現している。この住宅は1924年に建てられたが90年たった今でも革新的なデザインは色あせていない。近代建築のモダニズムの初期において最も影響を与えた建築物である。



